



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院・日本医療機能評価機構認定病院

■今月の PICK UP

令和 8年熊本地震 JCHO 人吉医療センター活動報告



■ REPORT

JCHO人吉医療センター活動報告

教えて片淵先生

緩和ケアの基本を学ぶ PEACE開催！

初開催の病院見学会

くま川鉄道 全線運行再開「手を振ろう」記念動画撮影プロジェクト

健康講話／イベント開催のお知らせ

JCHO 人吉医療センター活動報告

2026年7月28日に発災した令和8年熊本地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の皆さまには謹んでお悔やみを申し上げます。また、被災されました皆さまに、心よりお見舞いを申し上げます。

当地域でも震度 5 弱が観測されました。今回、震災における各部門の活動状況について報告いたします。

災害対策本部

大地震の発災後、すぐに管理者を始め多くの職員が 4 階事務室に参集し、災害対策本部が設置されました。

院内の患者さんの被害状況確認、病院設備・ライフラインの確認および職員の安否確認等を行いました。幸いにもいづれも大きな被害はありませんでした。エレベーターが停止し、給食等を人海戦術で運びましたが、翌朝には復旧しました。

その日のうちに DMAT 隊が他地域に参集され、当院は入退院調整や手術調整等を行いました。

数日間は、通常診療を行いながら他地域からの広域搬送の受入等を行いました。

日頃の訓練や職員の防災意識の高さのおかげで、円滑な対応ができたと感じています。今後も高い防災意識を保って、地域医療を支えていきたいと思っています。



本部にて各部署責任者招集

事務部長 山脇 淳

DMAT

DMAT（ディーマット）とは災害時の急性期・初期活動が出来る専門的な訓練を受けた医師・看護師・業務調整員で構成された災害派遣医療チームのことです。今回は 5 名のチームで活動を行いました。

7 月 28 日の 16 時 27 分に発災、20 時過ぎに熊本県より派遣要請。高速道路が通行止めだったために、一般道路を通して熊本県庁へ到着したのは午前 0 時頃、まず派遣されたのが熊本南病院でした。病院の中の壁や柱に被害があり、建物の倒壊の恐れがありましたので、熊本県のみでなく他の県の DMAT 隊や消防の方たちも協力して、全入院患者を他の病院へ搬送する活動を夜通し行いました。

その他には、EMIS（イーミス：広域災害救急医療情報システム）と呼ばれる、病院の状況等をインターネット上に知らせるシステムがあり、状況が不明の施設へ電話連絡をしたり、現地へ直接出向き、聞き取りを行い EMIS へ登録を行う任務も行いました。

先発隊は 7 月 28 日から 30 日の活動でしたが、被害が長引くにつれ再派遣の依頼が 8 月 17 日から 22 日の期間にありました。再派遣では、被害の大きかった氷川町の本部活動を行いました。複数ある避難所の運営に関し、DMAT だけでなく様々な支援団体と協力を行い、問題解決に向けて多くの会議や訪問を重ねました。

現在も避難所等で過ごされている方も数多くいらっしゃる状況です。皆様の生活が一日でも早く戻るよう今後も協力していきたいと思っています。

DMAT 業務調整員（主任診療放射線技師） 前田 竜一郎

栄養管理室



発災翌朝の非常時メニュー

今回の熊本地震では、発災時間が夕食配膳前でエレベーターの使用ができなくなり、配膳に苦慮しました。災害対策本部に配膳のための人員確保を要請し、栄養管理室のある 3 階から 5～7 階病棟の食事をリレー形式で配膳しました。多くの職員が協力し、通常の配膳時間内に配膳することができました。また、翌日の朝食もエレベーターの使用できない想定で、備蓄用のパンを用いた非常時メニューに切り替え提供し、昼食からは通常献立に戻すことができましたが、配膳経路が断たれた際の体制整備を再度見直したいと考えています。

副栄養管理室長 中村 利枝

看護部

令和8年7月28日の熊本地震に伴い、7月29日20:00～20:30の間に広域搬送患者7名を受け入れました。高速道路が寸断し、八代から通常30分の搬送が、五木村の山越えで1時間30分かかけての搬送となり、患者さんの安全を第一に搬送に尽力されたDMAT隊の皆さんに、深い敬意と感謝を申し上げます。また通常業務と並行して、急な受け入れに対応した医師及び看護師の迅速で献身的な協力に、心から感謝します。限られた人



発災直後高速道路の様子（撮影者：当院職員）

員の中で、柔軟に対応し力を尽くす姿に、チーム医療の強さを実感した夜となりました。

看護師長 前田 恵美

薬剤部

地震による院内の薬剤に対する被害は、ほぼありませんでした。しかし、当院に薬を卸している会社のうち7社中4社は八代市内にあり、人吉の卸会社も物流センターが八代にあることから、お盆用に確保していた薬品はもとより、日常的に使用する薬品の確保も困難となりました。稼働する他の卸会社に依頼し、なんとか対応できました。感謝申し上げます。また、熊本市内や八代市内で治療されていた方が、病院の被災や高速不通などにより通院できず、当院での治療を希望され、特殊な薬剤を確保するなどの対応にあたりました。発災後1ヵ月経過した頃に、ようやく通常の納品体制に戻りましたが、薬物療法が途切れないように苦心した日々でした。

副薬剤部長 木下 志保里

地域医療連携室

発災直後はEMIS（広域災害救急医療情報システム）を活用し、八代方面の被災病院や倒壊の恐れがある病院からの転院患者様の受け入れと、その後の地域医療機関への転院調整に注力しました。陸路やヘリコプターによる広域搬送では、対策本部にて消防やDMATとの連携をサポートしました。また、被災病院の通院患者様の受診や処方、手術待機のための転院など、個別の対応も実施しました。

連絡調整においては、「くまもとメディカルネットワーク」等を通じて医療機関や行政、介護事業所と情報共有を図り、スムーズな連携を実現できました。さらに、熊本市内で受診できず不安を抱えるがん患者様など、震災による心のケアとして公認心理師が患者様や職員の支援に関わりました。

今回の経験から課題を抽出し、いつ起きるかわからない災害に備え、日頃から災害に耐えうる連携体制づくりを進めてまいります。

主任医療社会事業専門員 南 秀明

感染制御チーム（ICT）

避難所での感染対策支援活動を行いました。

感染制御チーム（ICT）は、熊本県内の医療機関感染担当者からなる熊本県感染管理ネットワークに参加し、地域における感染管理のレベルアップと実践の推進を行っています。

令和8年熊本地震発生後、感染対策支援に入った災害時感染制御支援チーム（DICT）の活動を引き継ぐ形で、熊本県から依頼を受け避難所の巡回活動を実施いたしました。

避難所には、2施設の医療機関のICTが一つのチームとして巡回し、感染対策物品やトイレの清掃確認、居住環境の換気、感染者が発生した場合の保護室の整備などアドバイスを行いました。

災害時は環境の変化や集団生活により感染症が広がりやすくなります。今後も行政や関係機関と連携しながら、感染対策支援に努めてまいります。

感染管理室看護師長 別府 るみ



教えて! 片渕Dr.

Dr.KATABUCHI SPECIAL COLUMN

Vol.14

骨が危なくなる更年期 ～女性の骨密度低下と骨粗鬆症～

産婦人科 片渕 秀隆

読めるけど書けない漢字の一つが「骨粗鬆症（こつそしょうしょう）」でしょう。一日中流れているテレビショッピングでは、骨密度を高めるサプリメントの情報が氾濫しています。2022年の骨粗鬆症の患者数は、40歳以上の日本人では約1,590万人と推定され、その約74%が女性です。骨はしばしば鉄骨コンクリートの建物に喩えられ、骨の強さを決める**骨密度**はコンクリート部で、**骨質**が鉄骨部に相当します。この骨密度を高め維持するのが女性ホルモンの**エストロゲン**で、平均50.5歳の閉経の前後約10年間の更年期に漸減し、この期間に女性の骨密度は約20%低下するとされています。コンクリートが弱って骨がスカスカになる骨粗鬆症は、脊椎圧迫骨折や大腿骨頸部骨折などを引き起こし、その後要介護の状態を招く原因になります。日本人女性の平均寿命は87.33歳（令和7年簡易生命表）で世界のトップではあるものの、介護の必要がない健康寿命は75.45歳（2022年）であることがこのことを物語っています。

骨粗鬆症の治療が主に整形外科で行われることは言うまでもありませんが、女性の場合、その発見のきっかけになるのは検診や更年期症状で受診した産婦人科です。エストロゲン低下に伴い体感するホットフラッシュや急な発汗などの症状を治療すると同時に、症状のない骨密度の低下を発見することは、人生100年時代のターニングポイントである閉経後の健康を左右する重要な鍵にもなります。骨密度の測定は原則として骨折を起こし易い**腰椎と大腿骨近位部**で行われ、非常に少ない放射線被爆量（胸部X線写真の約100分の1）のDXA法が多く用いられています。若年成人平均値（YAM）と比較した骨密度が、80%以上で正常範囲、70～80%未満で骨量減少、70%未満で骨粗鬆症と診断されます。

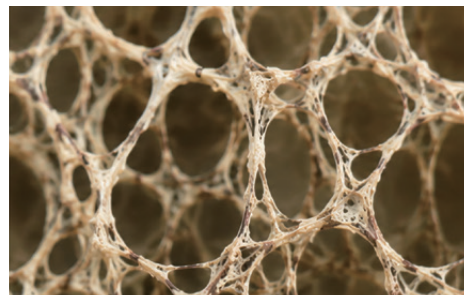
予防の基本は食生活と運動、そして日光浴です。骨密度を高めるためには、乳製品や小魚、葉物野菜などのカルシウムが豊富な食材が勧められています。散歩やウォーキングのような適度な運動の継続も大切です。紫外線は体内でビタミンD（カルシウムやリンの腸内吸収を促す脂溶性ビタミン）をつくるために不可欠で、日光を15分～30分程度浴びるだけで充分とされています。また、サプリメントでビタミンDを積極的に摂取するのも有効です。産婦人科でも行う第一選択の経口薬には、活性型ビタミンD3製剤に加え、骨の吸収（骨量が減る）を抑制するビスホスホネート製剤や選択的エストロゲン受容体調整薬（SERM）があります。骨密度の改善がみられない場合は、皮下注射や静注の薬剤（抗ランクル体薬、副甲状腺ホルモン剤、抗スクレロシン抗体薬）が整形外科で使用されています。

骨粗鬆症のリスク因子には喫煙や過度の飲酒、運動不足などの生活習慣があります。また、副腎皮質ステロイドなどの薬剤の長期使用も骨密度を低下させます。若い世代でも過度なダイエットやアスリートの体重制限などの結果、月経が不順になったり無月経になったりする場合は、更年期と同様にエストロゲンの分泌が低下している危険性がありますので、産婦人科の受診とともに骨密度の測定もお勧めします。

「正常骨の骨梁」

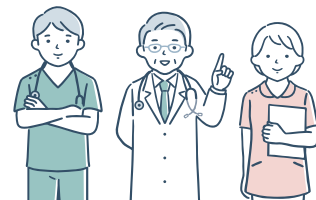


「骨粗鬆症の骨梁」





緩和ケアの基本を学ぶ PEACE 開催！



緩和ケアとは、がん等の疾患によって生じる、身体やこころの痛みを和らげる治療やケア、サポートなどの総称です。

当日は、熊本県内よりプロフェッショナルの講師の先生をお迎えし、連休初日ではありましたが、院内外の医師、看護師の9名が受講されました。今回2度目の受講となられた院外医師の医療に対する熱い思いや姿に感動し、年齢の垣根を越えたアットホームな雰囲気での開催となりました。



ファシリテーター、受講者と共にピース (PEACE)

ロールプレイでは、がん告知の場面さながら役になりきり、医師や患者を演じておられました。白熱した演技と共に、患者さんに生じ得るであろう感情を肌で体感されたことでしょう。また、グループワークでは、患者さんにとっての最善の医療やケアについて、他職種視点を含めた複数の視点から学びを深められたことと思います。

地域がん診療連携拠点病院として、次年度（9月の開催予定）も本研修（PEACE）を開催いたします。医療関係者でご興味のある方は、地域医療連携室までお問い合わせください。

地域医療連携室 鶴田 真奈美

2026
7/25

未来の仲間と出会う一日！ 初開催の病院見学会

7月25日14時より、当院では初めてとなる病院見学会を開催しました。

当日は、院長の挨拶からスタートし、その後は院内をご案内。看護部、放射線技師、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士の各職種に分かれ、仕事内容や日々の業務、職場の雰囲気について紹介しました。

高校生や学生の皆さん、そして当院への就職に興味をお持ちの方々にご参加いただき、熱心に話を聞いてくださる姿がとても印象的でした。参加者の皆さんに当院の魅力や働く人の思いを知っていただくとともに、私たちにとっても直接お話しできる、笑顔あふれる貴重な時間となりました。

これからも、地域の皆さんに当院をもっと身近に感じていただけるよう、さまざまな機会をつくっていきます。

看護師長 村上 陽子



薬師寺院長より説明



職場の様子をポスター掲示に

くま川鉄道 全線運行再開「手を振ろう」 記念動画撮影プロジェクト



～地域の復興を願い、笑顔でエール～

8月16日くま川鉄道の全線運行再開を祝う「くま川鉄道に手を振ろう」記念動画撮影プロジェクトに、人吉医療センターも参加しました。地域のみなさまが沿線から列車に手を振り、復旧を喜ぶ気持ちを一つにするこの取り組みに当院職員もお馴染みのオレンジ色の法被を羽織り、色鮮やかな応援グッズや横断幕を手に笑顔で列車へ大きく手を振りました。豪雨災害からの復旧に尽力されたみなさま、そして地域を支えてこられたみなさまへの感謝と敬意を胸に、これからも地域の中核医療機関として、「地域とともに」地域のみなさまとともに歩んでまいります。くま川鉄道の新たな一歩を、心から応援しています。

地域医療連携室 田頭 隼人

健康講話「生活習慣病予防について」を開催しました

令和8年度国家公務員健康週間の10月1日、地域職員34名を対象に健康講話を開催しました。健康寿命の延伸に向け、高血圧や糖尿病の基礎知識と予防方法についてお話ししました。脳疾患や心疾患、透析などの健康障害を防ぐためには、日頃の生活習慣が大切です。今回の講話が、ご自身の生活を振り返り、健康づくりへの意識を高めるきっかけとなれば幸いです。これからも健康づくりに役立つ情報を発信していきます。

予防医療センター 保健師 鶴嶋 由加



イベント開催のお知らせ

市民のための健康講座毎月開催中

- ◆ 会場：2F 外来 婦人科テレビ前
- ◆ 時間：13:00～13:30 ◆ 参加費：無料
- 予約の必要はありません。お気軽にご参加ください。



開催日程	テーマ	講師
令和8年11月12日(木)	「ACP “人生会議” “意思決定支援” について」	社会福祉士
令和8年12月10日(木)	「みんなで受けよう健診」	放射線技師
令和9年1月14日(木)	「高度医療と臨床工学技士」	臨床工学技士

世界糖尿病デー

啓発イベント in 人吉医療センター
(参加費無料、申し込み不要)

2026年11月13日(金)

- ・無料相談、血糖測定
(9:00～13:00 2階外来待合室)
；医師、看護師、管理栄養士、
薬剤師が対応いたします
- ・一般市民講座
「糖尿病と上手に付き合おう」
(14:00～15:00 2階婦人科待合室前)
；医師、認定看護師、管理栄養士から
のお話

第18回
2026
JCHO人吉医療センター
病院フェスティバル

令和8年12月13日(日)
12:00～15:30

屋外特設ステージ 12:00～

- 人吉第一中学校 吹奏楽部
- 笑福会 ひょっとこ踊り
- 職員によるバンド演奏 など
- クイズラリー (綿菓子プレゼント)
- 販売：カレー (地域協力会)

屋台 (どぎやんか先番隊) 他

屋内ブース

- 測定 ■体験 ■情報発信・相談 など

JCHO人吉医療センターフェスティバル実行委員会 人吉市神町35 電話0966-22-2191

読売・日本テレビ文化センター 人吉 開催

健康公開講座

『あなたの足は大丈夫?』
いつまでも自分の足で
歩くための大切なお話
～変形性関節症に対する最新治療:ロボット支援手術～

日時 2026年11月14日(土)
14:00～15:30(受付13:30)

場所 人吉市カルチャーハルス・2階第1会議室

講師 JCHO人吉医療センター 院長 薬師寺 俊剛 先生

交通 JR人吉駅より徒歩約20分、産交バス「カルチャーハルス前」バス停よりすぐ
通車 株式会社読売・日本テレビ文化センター 共催 日本ストライカー株式会社

お申込み・お問い合わせ

FAX、はがき、メールまたは二次元コードから次の項目をご記入の上、
下記宛先までお申込みください。

●講座名「健康公開講座・人吉」 ●代表者氏名 ●年齢 ●住所
●電話番号 ●申込人数 ●質問内容(ある方のみ)
※先着90名様に受講券を発送します。※ご来館の際は感染予防対策にご協力をお願いいたします。

〒135-0024 東京都江東区清洲1-2-1 読売江東ビル6F
E-mail: yncdr@ync.ne.jp FAX: 03-3642-4320
TEL: 03-3642-4301 月～金10:00～19:00(土日祝休)

※お申し込みの際の個人情報、当イベントの参加者管理目的にのみ使用し、この目的の達成に必要な範囲を
超えての利用及び第三者への開示・提供を行うことはありません。

理念

145年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心の医療
患者の人権と意思を尊重します

診療3本柱
がん・救急・予防医療を中心に医療機能の充実を図ります

完結型医療
地域の医療機関と連携し安心できる医療の展開を行います

地域包括ケア

地域包括ケアシステムを推進し地域のまちづくりに貢献します

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療ボランティアの活動を行います

医療人育成

地域医療に貢献できる医療人の育成を行います

臨床研修理念

医師としての人格を涵養し、医学・医療の社会的役割を認識しつつ、
臨床に必要な基本的診療能力を習得し、全人医療を提供できる医師を目指します。

臨床研修の 基本方針

1. 人間性豊かな医療人の育成
2. 医療全般にわたる広い視野と高い見識を持つ医療人の育成
3. 患者の立場に立った医療を実践する医療人の育成
4. チーム医療のできる医療人の育成

5. 生涯学習をする医療人の育成
6. 地域医療に貢献する医療人の育成
7. 公的の中核病院としての責務を自覚する医療人の育成

